令和元年度　学校関係者評価報告書

令和２年２月１０日

NO. 小１１　　市川市立平田小学校

		確かな学力	豊かな心	健やかな体	信頼される学校
1	実施重点	・少人数指導の実施 ・アクティブ・ラーニングの視点で研究授業を実施 ・基礎・基本の定着を図る ・家庭学習の習慣化	・たてわり活動で異学年交流を図る ・毎月、校内委員会で児童理解の場を設定 ・特別支援研修会の実施 ・豊かな体験活動の推進（地域人材の活用）	・体育委員会で外遊びの推進 ・正課体育授業の充実 ・栄養教諭の食育への参加 ・生活リズムの定着とカードの活用 ・身を守る安全教育の徹底	・学校だより・ＨＰ等で積極的な情報発信 ・学校運営協議会だよりの発行 ・学校だよりの自治会への配付 ・地域行事への積極的な参加
2	現状と課題	・８５%の児童が、「授業がわかりやすい」と回答している。今後も個に応じた指導や、発達段階に応じた教材、教具の工夫を行うとともに、授業研究を中心にして、今後さらに、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を推進していく。	・「誰とでも優しく関わっている」の項目において９４%の肯定的評価がある。普段の学校生活においての友達との関わり方のよさが表れている。 ・自分から挨拶をする子が少ないため、積極的に挨拶を交わす環境を更に整えたい。	・「家庭での生活習慣（睡眠・食習慣）づくり」の項目において８７%の肯定的評価がある。学期ごとに実施している生活習慣チェックが定着してきたといえる。 ・進んで体を動かす子と、動かさない子の二極化の実態があるので、改善していきたい。	・「学校は、保護者の思いや願いに適切に対応している」の項目において、９０%の肯定的評価がある。今後も保護者や地域の方に理解を得ながら学校経営を進めていきたい。
3	具体的な方策	・５、６年生に少人数担当者を配置し、算数を中心に少人数指導を展開している。 ・全家庭に「八中ブロック家庭学習のすすめ」を配付し、家庭と連携した取組を行っている。 ・市の学力向上推進校の指定を受け、今年度は公開研究会を実施した。	・児童会による「あいさつキャンペーン」を年に２回実施している。 ・人権教室、学校支援実践講座等、地域人材を活用して、いじめを生まない、いじめを許さない態度を育てている。 ・特別支援学級と通常学級との交流及び共同学習を推進している。	・体育委員会を中心に、業間休みに「走れ！フルマラソン」を実施した。 ・体育の授業では、学習活動の場を工夫し、運動量を増やした。 ・いろいろな場面を想定した避難訓練を年に４回実施した。危険予知能力、危険回避能力が身につくように取り組んだ。	・地域学校連携推進員と連携し、年間を通して多くの地域支援者の方に授業に参加していただいた。 ・学校運営協議会発足３年目となった。社会に開かれた教育課程の実現のために、学校教育目標の共有を図っている。
4	達成状況 ５：十分達成できた １：全くできなかった	５・④・３・２・１ 授業を参観し、先生方の熱意が感じられた。どの学年も落ち着いて元気に発表している姿を見て、学習に安心して取り組んでいるのがわかった。 宿題はもう少し確認してほしい。	５・④・３・２・１ あいさつキャンペーンについては、楽しみながら挨拶をしている姿が見られた。 今後、多様性を受け入れることが更に必要だと感じた。	５・④・３・２・１ ゲームで遊ぶ子が多い世の中だが、いろいろな取組を工夫することで、マラソンや長縄等、楽しく行えている様子がわかった。	５・④・３・２・１ 学校と地域は密な関係だと思うが、保護者と地域はだいぶ希薄なように感じる。子どもが卒業してしまうと、なかなか情報が入りにくい。
5	学校への意見	児童一人ひとりに対して、個性を尊重したきめ細やかな教育や指導がなされている。 主体的に、自ら学ぶ取組は、生きていくうえで大きな力となるので、今後もお願いしたい。			
6	市教委への意見	「平田子ども教室」の運営方針について、ご一考いただきたいと思う。 避難所になっていたり、町会行事で利用したりすることを考えて、体育館のトイレの洋式化をお願いしたい。			

◎「子どもたちの様子」、「授業や学習環境」、「会議での説明」、「保護者評価」、「内部評価」等を踏まえ，年度末に学校運営協議会委員に一年間の全体評価をして頂いたもの。